

(1)

# アラブ首長国連邦における「道德教育」科目導入の社会的背景に関する一考察

中 島 悠 介

はじめに

2016年7月27日、中東湾岸地域に位置するアラブ首長国連邦（以下、UAEと略）において、「2017年9月より、UAEの全ての公立・私立学校において、道德教育（Moral Education: al-Tarbiyat al-Akhlāqīyat）が正規科目として導入される」ことが発表された。道德教育が科目としてカリキュラムに導入されたことは、中東アラブ諸国においては初めての試みである。その主な理由として、イスラームを国教とし、イスラーム学習を公教育において提供している国々においては、道德教育ではなく、宗教教育が実施されてきたことが考えられる。公教育の役割の1つに、その国・社会で共有しておくべき共通の価値観を教えることが挙げられるが、こうした共通の価値観は主に宗教教育・道德教育・市民性教育などの価値教育を通して形成されることが期待され、これまでほとんどの国ぐにで何らかの価値教育が行われてきた<sup>(1)</sup>。一方、どのような形態の価値教育が提供されるかは国によって差異があり、上記の価値教育はそれぞれトレード・オフの関係にあるように、例えば宗教教育が行われていない国では市民性教育が重視されるが、道德教育を実施している国では宗教教育が行われていないことが多いといった傾向がある<sup>(2)</sup>。

UAEはイスラームを国教とするイスラーム国家であり、公教育においても「イスラーム学習」が必修科目として実施されてきた。例えば、クルアーンの一節に「饑い時に食い物出して、孤児や縁者、哀れな貧者を助けるのが謂い。それから信仰深い人々の仲間入りして、互いに忍耐すすめ合い、互いに慈悲をすすめ合うこと」（クルアーン 90章：14-18節 ‘al-Balad’）とあるように<sup>(3)</sup>、「イスラーム学習」が提供される中で、道德的な価値観もあわせて涵養されるのが一般的であった。この度発表された「道德教育」の導入後も、「イスラーム学習」が科目として残される点で、道德教育と宗教教育がカリキュラムにおいて併存することが予定されている。

一方で、UAEは全人口のうち国民が1割ほどしか占めない「国民マイノリティ国家」として、国内に多様な国籍の外国人を包含するという特徴的な国家形態を構築している<sup>(4)</sup>。このような社会状況から、公立学校は主に国民を対象とし、授業料等も無償であり、カリキュラムでも「イスラーム学習」が必修とされ、授業もアラビア語で行われる点で、国民を公立学校という制

(2)

度で囲っている状況がある。しかし、外国人を主な対象とした私立学校に対しても、アラビア語の授業を設けることを必須としたり、「学校査察 (School Inspection)」による評価を適用することなどを通し、緩やかな形で UAE の学校制度の中に引き入れようとしている状況がある。

このような状況に鑑みると、以下の問題関心が立ち上がる。それは、UAE では「イスラーム学習」が廃止されないまま「道徳教育」が科目として導入されることになったことには、どのような意図があるのか、ということである。UAE におけるイスラーム教育に関する研究では、1970 年代から 90 年に至る変遷を追った Al-Qassimi (1995) などが挙げられる<sup>(5)</sup>。他方、「道徳教育」の設置については新しい動向であるため、体系的な研究があるとはいいがたい。世界の公教育と宗教の関係に扱った研究は江原 (2003)<sup>(6)</sup>、杉本 (2003)<sup>(7)</sup>、宮崎 (2005)<sup>(8)</sup>、ウィルソン (2002)<sup>(9)</sup> などが見られるものの、UAE の状況を扱った研究は管見の限り見当たらない。以上の問題関心から、本稿は、UAE の「道徳教育」においてどのような教育が提供されることが意図され、また、科目として設置されるにあたりどのような背景があったのかを明らかにすることを目的とする。先述の通り、イスラーム国家では一般的に宗教教育を通して個人の道徳性が涵養されてきたが、「イスラーム学習」と並置させながら「道徳教育」の提供を決定した UAE の動向は、今後、他のイスラーム諸国の価値教育の展開に影響を与える可能性がある点で、本稿において研究の対象とする意義があると考えられる。

以上の目的を達成するため、第 1 節において UAE における基本的な教育改革の状況について概観する。そして第 2 節で、UAE における「道徳教育」の導入の経過と教育内容の概要を示し、第 3 節で道徳教育が導入された社会的背景について検討する。第 4 節ではこれまでに明らかにした事項をもとに総合的な考察を行う。また、本稿では科目としての道徳教育を「道徳教育」と表記し、「イスラーム学習」など他の科目についても同様の表記を使用するものとする。

## 1. UAE における教育制度の概況

本節では、UAE における主な教育改革の変遷とともに、一般的に提供されている初等・中等教育の教育内容を取り上げ、UAE の教育状況について概観する。

### (1) UAE における教育改革の変遷

UAE は、1972 年に建国された、7 つの首長国から構成される連邦制国家である。UAE には原油をはじめとした天然資源が豊富に埋蔵されているが、UAE の原油採掘量の 90% は首都でもあるアブダビ首長国（以下、アブダビ）で採掘されており、そこから得た収益を連邦政府への供託金として拠出しているため、政治的に大きな影響力を保持している。一方で、もう一つの中心的な首長国であるドバイ首長国（以下、ドバイ）に関しては、わずかに採掘される天然資源による収入はインフラ開発に消費され、資源依存型経済からの脱却を図るため、外資企業を積極的に誘致するための経済特区を設置し、経済的に大きく発展している。このような状況から、

UAE においては労働力として多くの外国人が居住することになり、全人口のうち国民が占める割合はわずか 10% ほどにとどまっている<sup>(10)</sup>。

英領統治時代には、1952 年までクルアーン学校が唯一の学校であったが、1972 年以降、教育省指定の教育課程による 6・3・3・4 制が採用された<sup>(11)</sup>。1971 年から 1977 年までは、教育省は同じく湾岸地域に位置する国であるクウェイトで開発されたシラバスを採用し、すべての教育段階に対して使用していたが、1977 年に最初のカリキュラム改革が実施され、初等教育と中等教育のナショナル・カリキュラムが作成された。また英語教育については、1991 年までは国外で作成された英語カリキュラムを使用していたが、その後教育省と UAE 大学が協働して第 4 学年から第 12 学年までを対象とした新カリキュラムを作成し、1992 年度からは第 1 学年にも提供された。現在も第 1 学年から第 12 学年までのすべての学年で英語教育を実施している<sup>(12)</sup>。

1990 年代には、3 つの段階に分けて教育改革が実施されている。1991 年から 1992 年までは第 1 段階として、当時のカリキュラムや教材に対する評価が行われた。1992 年から 1994 年までは第 2 段階として、教育大臣を委員長とした開発委員会が、「イスラーム教育（第 1～12 学年）」「アラビア語（第 1～12 学年）」「社会科（第 4～6 学年）」「地理学（第 7～12 学年）」「哲学（第 11～12 学年）」「社会学（第 11～12 学年）」「心理学（第 11～12 学年）」のカリキュラムを開発したとされる。1994 年から 1998 年までは第 3 段階として、これらのカリキュラムにおける教科書や教材、マニュアルなどが導入された。同時に、1994 年度に高等学校において「コンピュータ科学」の科目が、また 1999 年度には「ライフスキル」の科目が開始されている<sup>(13)</sup>。

このように、教育課程の改革が進められる中、各教育段階の年数についても変更されている。1999 年度までは、先述のとおり、6・3・3・4 制であり、初等教育は 6～11 歳の 6 年間であった。しかし 2000 年度以降は、第 1 学年から第 5 学年までを「第 1 サイクル（初等教育に相当、6 歳で入学）」、第 6 学年から第 9 学年までを「第 2 サイクル（前期中等教育に相当）」とし、この 9 年間は義務教育とされた。また、後期中等教育（第 3 サイクル）は 15 歳から 17 歳までの 3 年間とされ、1 年間の共通科目を履修したのち、2 年目以降は文系か理系のコースを選択することとなった<sup>(14)</sup>。

## (2) UAE における教育内容の概要

UAE では、科目構成と割り当てられる時間が首長国によって異なるため、本項ではアブダビを事例に、科目の種類及び授業時間数の状況を検討する。表 1 はアブダビの公立学校における、第 1 サイクルと第 2 サイクルの科目の種類と 1 週間の時間数であり、表 2 は第 3 サイクル（後期中等教育段階）のものである。一般的に、UAE の公立学校に就学する子どもの多くは UAE 人で占められるため、アラビア語で授業が行われているが、私立学校では現地在住の外国人が多く在籍しているため、英語で授業が行われる場合が多い。「イスラーム学習」は第 1 学年から第 12 学年まですべての学年において割り振られているが、第 1・第 2 サイクルにおいては週 4 時間となっている一方で、第 3 サイクルにおいては週 3 時間に減少している。「アラビア語」につ

(4)

表1 アブダビの公立学校の第1・2サイクルにおける1週間の授業時間数

科目	第1サイクル					第2サイクル			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
イスラーム学習	4	4	4	4	4	4	4	4	4
アラビア語	8	8	8	8	8	8	7	7	7
英語	6	6	6	6	6	6	6	6	6
科学	4	4	4	4	4	3	4	4	4
数学	5	5	5	5	5	6	6	6	6
社会科	—	—	—	2	2	2	—	—	—
歴史	—	—	—	—	—	—	2	2	3
地理	—	—	—	—	—	—	2	2	2
公民	1	1	1	—	—	—	—	—	—
健康・体育	2	2	2	2	2	2	2	2	1
芸術	2	2	2	1	1	1	1	1	1
音楽・家政学・ライフスキル	2	2	2	2	2	2	—	—	—
情報技術	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	35	35	35	35	35	35	35	35	35

出典：International Bureau of Education. *World Data on Education*. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. 2011, p.13.

表2 アブダビの公立学校の第3サイクル（後期中等教育）における1週間の授業時間数

科目	10	11		12	
	5	文系	理系	文系	理系
イスラーム学習	3	3	3	3	3
アラビア語	7	8	7	10	7
英語	10	10	10	10	10
数学	10	6	10	5	9
物理	2	2	4	2	5
化学	2	2	3	—	4
生物学	2	2	3	2	3
地学	1	—	1	—	1
歴史	2	2	—	2	—
地理	2	2	—	3	—
経済	—	2	—	2	—
心理学	—	2	—	3	—
情報技術	2	2	2	1	1
健康・体育	2	2	2	2	2
	45	45	45	45	45

出典：International Bureau of Education. *World Data on Education*. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. 2011, p.14.

いても同様に、すべての学年において提供されているものの、第3サイクルの文系を除き、学年段階が上がるにつれて割り振られる時間数が減少する傾向にあることが見て取れる。このような「アラビア語」「イスラーム学習」の傾向に対し、「英語」については第1学年から提供され、文系・理系問わず学年段階が上がるにつれて授業時間が増加し、第10学年以降は「アラビア

語」の時間数を上回っている。また英語と同様、数学や化学といった科目も第2サイクル以降に増加する傾向があり、後期中等教育段階では大学進学を意識した学力中心の教育内容へと移行していることが見て取れる。Al-Mazrouiによれば、現在、UAEにおけるほとんどの学校は「イスラーム学習」の授業を提供しており、いくつかの私立学校でもまた、他の信条の学習のための時間を設けている。しかし、普遍的な人間の価値観を教えるための公式の授業はほとんどない状況であるとされる<sup>(15)</sup>。

## 2. UAEにおける「道徳教育」導入の経過とカリキュラムの概要

2016年7月27日、ムハンマド・ビン・ザーイド・アル=ナヒヤーンアブダビ皇太子・連邦軍副最高司令官（以下、ムハンマドアブダビ皇太子と略）の指導のもと、皇太子裁判所が、UAE教育省やアブダビ教育評議会等と協力し、「道徳教育」と銘打たれた科目として、学校教育のカリキュラム及びコースに組み込む方針を発表した<sup>(16)</sup>。

科目の中には、「倫理」「個人とコミュニティの発展」「文化と遺産」「市民性教育」「権利と責任」の5つの要素が含まれるようにすることが想定されている。新しい「道徳教育」は、公立学校や、UAEの教育省カリキュラムに従っている私立学校ではアラビア語で提供され、その他の私立学校については英語で提供されることになるが、これらの私立学校についてはアラビア語で提供することを選択することもできる。また「道徳教育」は、すべての公立、私立学校において、第1学年から第11学年まで、週に1回実施されることとされた。アブダビの学校については、幼稚園と第12学年については、社会科関連の授業に置き換えられることになり、それは道徳の授業とよく似た目的・トピックを扱っていることが理由とされている<sup>(17)</sup>。

カリキュラムの作成は、特別に設置された「道徳教育委員会」によって行われるが、そこではアブダビ皇太子裁判所、UAE教育省、アブダビ教育委員会（Abu Dhabi Education Council、以下ADECと略）、ドバイ知識人材開発庁、アブダビ観光文化庁が含まれている。Al-Hammadi UAE教育大臣は、「新しい道徳教育のカリキュラムは、教育における本当のマイルストーンを表すものである」「私たちは委員会において、持続可能な社会のより大きな価値へ貢献するとともに、若者たちを幸福で、健康的で、創造的な人生へ導くことを準備するために統合されている」「1つのカリキュラムが、すべての国籍や年齢の生徒の幸福について、これほど巨大な多様性や豊富な内容を示したことはこれまでなかった」と述べていることから<sup>(18)</sup>、その科目の総合性や内容の多様性に対する認識が見て取れる。

2017年1月には、20の公立学校、私立学校でパイロットプログラムが開始された。これらの学校では教科書が導入され、教育省は正式な開始に向けてフィードバックを得ることになった。正式なカリキュラムは未だ公表されていないものの、このパイロットプログラムのシンポジウムにおいて、暫定的なカリキュラムの概要が提示された（表3）。そこでは、カリキュラムは「個性と道徳性」「個人とコミュニティ」「市民性教育」「文化的教育」の4つの柱に分けられ、その

(6)

表3 UAEにおける「道徳教育」のカリキュラムの概要

サイクル	柱	ユニット
第1サイクル 第1学年   第5学年	個性と道徳性	「公平性と愛情」「思いやりと正直さ」「差異への寛容と尊重」「強靱性と忍耐」「平等と感謝」「思慮深さと協力」「平和と責任」「勤勉性と忍耐」「認知的・感情的共感」
	個人とコミュニティ	「自身と家族」「友好」「自身のアイデンティティと他者との協働」「健康と元気」「自身と世界」「勇気を持つことと安全を保つこと」「成長と幸福」「違いを生み出し、助けること」「責任を取ること」「スポーツにおける倫理」「肉体的健康と食料」
	市民性教育	「UAEにおける住居・家族・親戚」
	文化的教育	「物語を通じたUAEの遺産の発見」「無形遺産」「物や象徴が私たちに語りかけること」「共通性と差異」「UAE文化の理解」「貿易・旅行・コミュニケーションの文化への影響」
第2サイクル 第6学年   第9学年	個性と道徳性	「道徳的性格と倫理の美德」「多様性社会における尊敬と寛容」「個人の道徳的責任と義務」「人類のニーズ」「コミュニティの文脈における道徳性」「国家の文脈における道徳性」「グローバル倫理入門」
	個人とコミュニティ	「精神的健康」「よい決定を行うこと」「デジタル・チャレンジ」「多様性の尊重」「争いへの対処」「金銭への意識とリテラシー」
	市民性教育	「どのようにしてUAEは多様で包摂的な社会へと発展したのか」「ますますグローバル化し、相互に接続する世界における文化交流とUAE」「UAEにおける協議型ガバナンスの発展」「政府・省庁とUAEの司法制度」
	文化的教育	「何を、どのように保存するか」
第3サイクル 第10学年   第12学年	個性と道徳性	「倫理と世界経済」「平和と衝突」
	個人とコミュニティ	「平穏な人生を過ごす」「振り返りと移行期」
	市民性教育	「活動的な市民になる」「責任感のある大人になる」「グローバル市民権」「グローバルな見方の涵養」
	文化的教育	「異文化間の関係」「普遍的な文化」

出典：Gulf News. “20 Schools across UAE will Pilot Moral Education from January.” <http://gulfnews.com/news/uae/education/20-schools-across-uae-will-pilot-moral-education-from-january-1.1919325> (2017年5月20日取得) 及び、Gulf Times. “Moral Education will Serve Objectives of Year of Giving.” <http://gulftoday.ae/portal/c0a5d6e8-03be-4baf-9327-77258c7ed154.aspx5> (2017年5月20日取得) より筆者作成。

中には個別のユニットが設けられた。内容を見てみると、イスラームなどの特定の宗教に関する記述は見られず、「倫理」「道徳」「平等」「平和」といった、より一般的な表現が用いられていることが見て取れる。一方で、特定の思想に関する記述は見られないものの、UAEの社会・経済・政治・文化遺産などに関する記述は多く見られ、国民・外国人問わずUAEに関する知識や国家・社会のあり方に関するテーマが設定されている。また、「グローバル」という単語も多くみられ、UAEで多くの外国人が居住する特性もテーマの中に表れているといえる。

### 3. 「道徳教育」導入の社会的背景と導入への評価

本節では、第1項において「道徳教育」の導入を推進しているムハンマドアブダビ皇太子を

はじめ、政治的に重要な役割を果たしている人物による「道德教育」に関わる言説を提示し、それぞれがどのような主張を行っているのかを明らかにする。そして第2項において、主に学校教員の「道德教育」の導入に対する反応を取り上げ、どのような期待を寄せているのかを検討する。

### (1) 「道德教育」導入にかかる社会的背景

本項では、UAEにおいて道德教育を推進しているムハンマドアブダビ皇太子と、UAEにおいて政治的に中心となっているアブダビ首長を兼ねている、シェイク・ハリーファ・ビン・ザーイド・アル=ナヒヤーン UAE 大統領（以下、ハリーファ UAE 大統領と略）、経済的に大きく発展しているドバイの首長を兼ねている、ムハンマド・ビン・ラーシド・アル=マクトゥーム UAE 首相（以下、マクトゥーム UAE 首相と略）による「道德教育」に関わる言説を検討する。

まず、ムハンマドアブダビ皇太子については、2016年に発表された「道德教育」の導入にあたり、「技術的であれ、科学的であれ、いかなる進歩を国家が達成しようとも、国家の存続性は、国家が現在と栄光のある未来を建設することへ向けた道において、どの程度自らの高貴な価値観や原理を保持するかに依存している。その中心にあるものは、科学はその強みとなるものであるが、文化的価値観と人間の道德の向上である」と述べており<sup>(19)</sup>、国家の存続を科学の発展と道德性の堅持という2つの側面から述べている。同時に、彼はまた、「道德教育」が自尊心と強さを提供するということに加え、愛国心の向上の重要性も指摘している。

このようなムハンマドアブダビ皇太子に対し、2017年、ハリーファ UAE 大統領（兼アブダビ首長）は国家方針として「Year of Giving」を発表し、国家として国民のコミュニティへの寄与の向上について指し示した。そこではコミュニティへの恩返しを文化を促進し、国家へのボランティア精神や忠誠心の向上を目的としている。「Year of Giving」では3つのテーマが設定され、具体的には(1)民間部門におけるコミュニティでの責任感を創造し、コミュニティへの従事における民間部門の役割を増進し、国家の発展に貢献できるようにする。(2)ボランティア精神を向上させ、社会発展やコミュニティ・サービスにおける補助的役割を果たすための「特別ボランティアプログラム」を促進する。(3)次世代において、自身の国への忠誠心や献身性を備え付ける。それは国家を愛し、貢献するために育てられたUAE国民の資質となる、ということが述べられている。この方針は、「与える」という行動をすべての人にとっての道德的価値観とさせることを目標としている点で、ムハンマドアブダビ皇太子によって発せられた2016年の「道德教育」の方針にもつながるものであるとされた。実際には6つの方向性として「社会的責任の協力」「ボランティア活動」「人道的な機関の役割」「メディアの役割」「法的枠組み」「国家への従事」が打ち出され<sup>(20)</sup>、貢献心や忠誠心を向上させるため、法的・組織的・実践的な側面から様々な取り組みを行うことが示されている。

最後に「道德教育」に対する考え方として、マクトゥーム UAE 首相（兼ドバイ首長）が示し

(8)

たものを取り上げたい。マクトゥーム首相は2016年11月16日の「国際寛容デー」の前日に、UAE国民へ向けて「寛容のメッセージ (Risālat al-Tasāmuh)」を発表した。そこでは、マクトゥーム首相の父であるシェイク・ラーシド<sup>(21)</sup>時代のドバイの状況に触れつつ、下記のように述べている<sup>(22)</sup>。

「私は40年前の亡き父のマジュリス<sup>(23)</sup>をよく覚えている。私はそのマジュリスの性質とその出席者を覚えている。そこには若者もいれば老人もいた。新参者もいれば伝統的なバドウィンもいた。様々な部族や宗派からの市民がいた。異なる背景を持つ者や異なる人種もいた。それらはシェイク・ラーシドの目にはすべて等しく映り、実際に等しく扱われた。等しく尊敬され、等しく評価され、同等の権利を持っていた。シェイク・ラーシドの近くに座る者は努力家であり、それぞれの分野の主導者であった。世界中からの異なる宗教、国籍、文化を持つ者がUAE人と同じように等しく出席していた。シェイク・ラーシドのマジュリスは彼らを迎え入れた。ドバイは彼らを迎え入れた。彼らは確固とした愛、感謝、忠誠をもって報い、私たちはそれを今日でも彼らや彼らの子どもたちに見ることができる。」

「これらの倫理はシェイク・ザードやシェイク・ラーシドの大きな遺産である。自身の国家において誇りをもつべきは、建造物でも、広い道路でも、巨大なショッピングモールでもなく、むしろ私たちの国家の開放性と寛容さである。私たちの誇りは、私たちが、すべての者がそれぞれの違いに関わらず等しく繁栄する国家であり、真実の愛と受容を持つ国家であるという事実にある。それは、人種、肌の色、宗教、宗派、エスニシティに由来する排他主義、不寛容、差別への恐怖とは無縁の状況を楽しみ、人々は調和的に居住、労働し、子どもを育てる国家である。」

「私たちはオンラインで共有された意見や議論を尊重する一方で、それらが不寛容に陥ることを許すことはできない。私たちはUAEにおいて個人の間に格差を認めることはしないし、ましてや他者を差別するために人種や国籍を用いることもしない。私たちはすべての人々を、神が創造したものとして等しくみなす。勤勉に労働し、私たちの法律や憲法を尊重し、私たちの国家に貢献する人々を除き、だれも選り好みされたり、恩賞が与えられたりすることもない。シェイク・ザードは自身の価値観や知識をUAEの人々に分け与えた。それゆえ、私の兄弟であるムハンマド・ビン・ザードが学校のカリキュラムに「道徳教育」を導入していることは、驚くべきことではない。彼はシェイク・ザードがUAEにおける彼の息子や娘に広めたメッセージが死滅しないことを願っている。」

このように、マクトゥーム UAE 首相による「寛容のメッセージ」の中では、UAE における多国籍・多民族・多文化性が主に述べられており、UAE 社会でそれらにより差別が行われない



ことや、情報化社会が発展する中で、オンラインなどを通じて排他的・排斥的な雰囲気形成されないことを願っており、「道徳教育」がそのような寛容性を持つ社会を形成することに貢献することを期待しているといえる。実際に UAE においては、2015 年に「反差別法 (Anti-Discrimination Law)」が施行されるとともに、新たに寛容省 (Ministry of Tolerance) が設置され、その法律の実行を管理している。「私たちは宗派主義、民族主義もしくはコミュニティにおける嫌悪を経験するべきではない」というマクトゥーム UAE 首相の言葉からも<sup>(24)</sup>、多様な国籍・人種・宗教で構成される UAE 社会において、それらを包含する「道徳教育」の導入が期待されていることがわかる。

## (2) 「道徳教育」の導入に対する評価

本項では、UAE 人を主な対象とした公立学校と、外国人を主な対象とした私立学校が、UAE における「道徳教育」の導入についてどのように評価しているかを検討する。

まず、UAE における公立高校について、UAE 人教師である Al-Zaabi は、「UAE のカリキュラムはこれまで大きく変更されてきたが、それは子どもたちがさらなる創造性や革新性を持つことのみに焦点が当てられてきた。彼らはお互いの革新をどのように尊敬しあうかを忘れていた」と述べている。また、「彼らは何かを発明し、物事を賢く行うけれども、彼らはお互いに尊敬することはなかったし、またそのような価値観を持つこともなかった。したがって、このことをカリキュラムの一部に入れることはとても不可欠なことである」とし、「今日の UAE 人の若者は、大量の外国の価値観、宗教、文化、経験にさらされ、彼らはよき市民になるための方法を学ぶ必要がある」<sup>(25)</sup>と述べていることから、学力を中心としたこれまでの教育改革に対し、「道徳教育」が子どもの他者を尊重する心を涵養することに期待している。また、UAE 人校長の Al-Hammadi は「私たちは今こそ、この戦略を用いなければならない。それは、私たちは子どもたち自身の思考力や理解力を改善したいからである。私たちは彼らに知識を暗記させるのみではなく、お互いに議論させ、理解させ、協働させる必要がある」と評価し、学力や思考力の発展と結びつけながら、対話する力や協働する力の育成に言及している<sup>(26)</sup>。

一方で、私立学校については、Brighton College のディレクターである Yorath は「私は、全国のすべての学校が、道徳の発展を同じように強調することを保証するナショナル・カリキュラムを歓迎する。私たちは、このプログラムが社会において必要とされる成功を達成することを保証するために、支援する役割を果たすことを楽しみにしている」<sup>(27)</sup>と述べている。また、アブダビ・フィリピンスクールはパイロットスクールとして、4つの柱のうち、「個性と道徳性」を実施した。このアブダビ・フィリピンスクールの校長である Esguerra は「私たちはそれを実行することに困難を感じることはなかった。しかし、道徳教育カリキュラムの内容をより社会的に関連づけたものにするには、文化的な境界を横断的に行う必要があり、それは高度に多様化された国家である UAE に適している」と述べている。また、「このプログラムはグローバルな視点を設定しており、文化的な違いに挑戦し、個人の国家的なアイデンティティを損なうことなく多

(10)

様性を尊重するものである」と述べており、外国人を対象とした学校でも、総合的な「道德教育」を提供することに一定の評価を与えていることがわかる<sup>(28)</sup>。

しかし、こうした包括的な道德教育の導入に対して懸念も示されている。レバノン人ジャーナリストである Zeaiter は「(この度導入される道德教育では) 価値が教えられ、若者は倫理的な観点から問題を考えることを奨励されるが、今日の世界は倫理における基本的な概念に関わる多くの定義を欠いている」と述べた上で「アラブ諸国では宗教的な倫理や社会的な倫理、発展しつつある個人主義などの倫理と衝突しあっている状況にある」ことに言及し、多くの状況において矛盾を引き起こす可能性があることを指摘している<sup>(29)</sup>。この度 UAE のすべての学校において取り入れられることとなった「道德教育」では、従来は「イスラーム学習」において道德的な資質が涵養されてきた中で、グローバル化が極端に進行する国家である UAE において、イスラームのみでは対応しきれないような「UAE」に焦点を当てた包括的な価値規範を提供することを目指すものといえる。しかし、そうした包括的な道德教育が目指される中で、「従来の価値規範であるイスラームとはどのような調整が行われうるのか」「教え込むばかりではなく、異なる価値観に基づく対話や議論は行われるのか」「学校教育における国民と外国人の対話は起こりうるのか」といった課題にどのように対処していくのか、今後の動向を注意してみていく必要があるだろう。

#### 4. 考察

本稿は UAE の「道德教育」においてどのような教育が提供されることが意図され、また、科目として設置されるにあたりどのような背景があったのかを明らかにすることを目的としている。本節ではこの目的のため、前節までの「道德教育」のカリキュラム及び、政府関係者や学校関係者による「道德教育」への認識をもとに、「道德教育」に期待される役割及びその背景を考察する。

まず、ハリーファ UAE 大統領（兼アブダビ首長）については、「道德教育」の導入において、国家へのボランティア精神の涵養や、国民として統合するための措置としての見方が強いといえるだろう。UAE の国家指針として打ち出された「Year of Giving」では、UAE 国民が国家やコミュニティへの貢献心・忠誠心を向上させるためのツールとして「道德教育」が大きな役割を果たすことが期待されている。ハリーファ UAE 大統領は実際に、ムハンマド・ビン・ザーイドマジュリスにおいて日本の取り組みを称賛している。そこでは、1870 年に、日本において道德教育カリキュラムが導入され<sup>(30)</sup>、下降しつつあった重要な伝統や慣習を強化しようとしたこと、その目的が、勤労や忍耐といった価値観を称賛し、生徒が学校に貢献し、協働することでお互いに助け合う責任を持つことであったと評価し、また、このカリキュラムの一部で、生徒は年長者・教員を尊敬することや、正しいことをすること、より成熟し調和されるように教えられたということに言及している<sup>(31)</sup>。現在でも、日本の学校におけるこのような取り組みは、勤勉で、

尊厳を持ち、協働的な市民が国家に貢献することを促すものとして評価していた。

一方で、マクトゥーム UAE 首相（兼ドバイ首長）が打ち出した「寛容のメッセージ」を見ると、国民の貢献心や忠誠心の向上というよりは、国際化や情報化が進行するドバイにおいて、外国人に対する寛容さの育成や多様性の受容といった観点到焦点が当てられていることが見て取れる。実際に、ドバイは UAE の中でも特に外国人の人口が多く、その国籍も多様である。インターネット等が発展し、情報化社会が進行する中で、外国人への排他主義や差別が行われることを懸念し、社会において多文化、多人種、多宗教を認める寛容さを醸成することが「道德教育」の役割として述べられているといえる。このように、ハリーファ UAE 大統領とマクトゥーム UAE 首相について、連邦制という観点から国家統合を視野に入れている UAE 大統領兼アブダビ首長という立場と、人口の多さや国籍・文化の多様性への観点が求められる UAE 首相兼ドバイ首長という立場によって、それぞれが「道德教育」に対して期待する役割に特徴が表れているといえる。

また、本稿では数は少ないものの、教員の立場を含めた「道德教育」の導入への期待について、いくつかの特徴が見ることができる。第 1 に、「道德教育」が扱う内容の包括性である。これまでの教育改革では主として学力向上や国際化といった側面から進められ、価値教育という観点からは、公立学校では「イスラーム学習」を設定するか、私立学校では特定の国籍を考慮し、それぞれの信条に基づいた価値教育を行っていたとされる。この度発表された「道德教育」については、特定の宗教に関する項目は前面に出されておらず、その内容の総合性・多様性はこれまでの UAE における教育では類を見ないものとされた。一方で、UAE の歴史や文化、社会、政治、経済に関する項目は多く設定されており、国民と外国人に分離させるのではなく、それらをまとめた UAE としての市民性教育の方向性が打ち出されている。そこには、ハリーファ UAE 大統領が打ち出したような国民・外国人の国家への貢献心・忠誠心の向上とともに、マクトゥーム UAE 首相が提示した社会的な寛容さの育成という点にもつながるものであるといえる。

第 2 に、アラブ諸国における「道德性の向上」という目的が挙げられる。実際に、アラブ諸国は UAE に限らず、子どもの道德性の育成について大きな課題を有してきた。学校は生徒に対して寛容さや積極性、対話といった価値観や、それらの価値観を生活において実践する方法を教えることを失敗してきたとされる。また、いくつかの学校のカリキュラムは若者の精神を排他主義、民族主義、嫌悪的な価値観で汚染しているという状況もあったという<sup>(32)</sup>。加えて、アラブの学校や大学は、積極性や「やり遂げる意思」を欠いた卒業生を生み出すことに問題を抱えており、これらの卒業生は自身の環境や権利、義務に関する混沌とした概念に苦しみ、責任感を欠くという状況に陥っていたとされ、このことは道德教育の方針が取り組もうとしていることでもある<sup>(33)</sup>。Al-Mazroui は「アラブ世界は現在多くの困難に直面している。子どもたちに違いを認識させ、人権を尊重させ、攻撃的な振る舞いを取り除くことには最も適時である」と述べており<sup>(34)</sup>、「道德教育」がこのような UAE ひいてはアラブ諸国の課題に挑戦することに期待を示している。このように、UAE における「道德教育」の導入は、UAE が抱えている国家統合や多

(12)

様性への寛容さといった社会的特性を踏まえて行われているのであり、また、これまでイスラームを通した宗教教育が備えていなかった総合的な倫理的価値観の育成をその特徴として、UAEの社会的課題にアプローチすることが期待されているといえる。

## おわりに

本稿では、UAEにおいて導入が検討されている「道德教育」の科目が、どのような社会的背景から導入されるに至ったのかを明らかにすることを目的としている。UAEは7つの首長国から構成される連邦制国家であり、同時に国民が全人口の約1割しか占めないという特徴をもっている。そのような社会的環境を背景に、「道德教育」は「イスラーム学習」と併存する形で導入されることが目指されているが、その特徴として、「道德教育」が備える「総合性」「多様性」をもって、国民・外国人をまとめた貢献心・忠誠心の向上や、排他主義を抑制し、社会的な寛容さを高めることが期待されている。このため、UAEにおいてこれまで進められてきた学力を重視した教育改革の方向性から新たな方針を示すことになったといえるだろう。一方で、新しく導入される「道德教育」の内容が既存の道德的価値観としてのイスラームとどのように調整されるのか、また、学校教育において異なる価値観をもつであろうUAE人と外国人が交流したり、議論したりする機会が持たれるのかどうかについては、「道德教育」の実施後により詳細な検討が必要である。

UAEにおける「道德教育」の導入は、非常に新しい動向であるため、文献資料も少なく、今後もより詳細な研究が必要であると考えられる。実際に「道德教育」が公立学校・私立学校でどのように実施されるのか、その実態についてもさらなる調査が必須になるだろう。現実にはUAE国民と外国人には文化的、宗教的、権利的な側面で明確な差があり、それらを包括するような「道德教育」を実施することが可能なのか、より鮮明に明らかにすることを今後の研究の課題としたい。

## 注

- (1) 宮崎元裕「価値観の多様化と宗教教育・道德教育」京都大学大学院教育学研究科比較教育学研究室『アジア教育研究報告』第6号、2005年、17-29頁。
- (2) 伴恒信「世界の道德教育の俯瞰図」J. ウィルソン監修（押谷由夫・伴恒信編訳）『世界の道德教育』玉川大学出版部、2002年、19-21頁。
- (3) 井筒俊彦訳『コーラン』岩波書店、1958年、334頁。
- (4) 堀抜功二「アラブ首長国連邦における国家運営と社会変容」京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科2011年度博士論文。
- (5) Al-Qassimi, A. M. "Islamic Education in the U. A. E. Preparatory Schools over the Period 1972-1990 (An Evaluative Study)" Thesis Submitted to the Faculty of Arts, Department of Theology for the Degree of Doctor of Philosophy. University of Birmingham, 1995.
- (6) 江原武一編『世界の公教育と宗教』東信堂、2003年。

- (7) 例えば、国民の大部分が共通の宗教を信仰している場合には、宗教教育が行われる場合が多いが、多数派宗教が存在しない場合には宗教教育ではなく道德教育が行われることが多いとされる。イスラーム人口が9割のインドネシアはイスラーム教徒の支配力が自然状態でゆるぎないため、逆にマイノリティに対して寛容な教育施策を提供することが可能となっている。一方で、シンガポールについては、イスラーム人口が1割程度なので、公教育としては1本化した世俗型道德教育となる。マレーシアについては、イスラームが国教である一方、ムスリムが圧倒的多数というわけでもないため、イスラーム支配層は寛容性の低いイスラーム教育を押しつけることにもなる（杉本均「マレーシアにおける宗教教育とナショナリズム」江原武一編著『世界の公教育と宗教』東信堂、2003年、316-339頁）。
- (8) 宮崎元裕、前掲論文、2005年、17-29頁。
- (9) ウィルソン、J 監修（押谷由夫・伴恒信編訳）『世界の道德教育』玉川大学出版部、2002年。
- (10) 中島悠介「アラブ首長国連邦における外国大学分校の比較考察－規制主体の多様化と分校の管理運営構造を中心に－」『京都大学大学院教育学研究科紀要』第62号、2016年、197-209頁。
- (11) 藤原英夫「アラブ首長国連邦の教育」日本比較教育学会編『比較教育学事典』東信堂、2012年、31頁。
- (12) International Bureau of Education. *World Data on Education, United Arab Emirates*. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. 2011, pp.8-9.
- (13) *Ibid.*, pp.9-10.
- (14) *Ibid.*, pp.7-8.
- (15) Gulf News. "52 Schools to Teach Moral Education in Capital." <http://gulfnews.com/news/uae/education/52-schools-to-teach-moral-education-in-capital-1.1901690> (2017年5月20日取得)。
- (16) Emirates News Agency. "Abu Dhabi Crown Prince's Court Launches Moral Education Initiative." <http://wam.ae/en/details/1395298218093> (2017年5月20日取得)。
- (17) Abu Dhabi Education Council. "ADEC Organizes A Training Program on "Moral Education"- Prior to Launching the Pilot Program in Schools Starting Trimester II." <https://www.adec.ac.ae/en/MediaCenter/News/Pages/ADEC-organizes-a-training-program-on-%E2%80%9CMoral-Education%E2%80%9D--Prior-to-launching-the-pilot-program-in-schools-starting-trimester-.aspx> (2017年5月20日取得)。
- (18) Khaleej Times. "Principals to Boost Moral Education in Schools." <http://www.khaleejtimes.com/news/education/principals-to-boost-moral-education-in-schools> (2017年5月20日取得)。
- (19) The National. "Why Moral Education is So Important." <http://www.thenational.ae/opinion/comment/why-moral-education-is-so-important> (2017年5月20日取得)。
- (20) KPMF. *UAE's Year of Giving*. 2017, pp.1-3.
- (21) 正式名称は「ラーシド・ビン・サイード・アル・マクトゥーム」である。
- (22) United Arab Emirates the Cabinet. "Risālat al-tasāmuh." <https://uaecabinet.ae/en/tolerance-letter> (2017年5月20日取得)。
- (23) 議会、諮問会議、会議・評議の場所、人の集まる場所、評議などをさす語で、政治的な用語として用いられることが多い。サウディアラビアなどの湾岸アラブ諸国では、国王や政府指導層の宮殿・自宅などに人びとが集まり、陳情や話し合いをする場として開かれることがある（福田安志「マジュリス」大塚和夫他編著『岩波 イスラーム辞典』岩波書店、2002年、911頁）。
- (24) United Arab Emirates the Cabinet. *op.cit.* (前掲アドレス参照)。
- (25) The National. "UAE's Moral Education Curriculum will 'Encourage Pupils to be More Respectful'." <http://www.thenational.ae/uae/education/20161027/uaes-moral-education-curriculum-will-encourage-pupils-to-be-more-respectful> (2017年5月20日取得)。

- (26) *Ibid.*, (同上アドレス参照).
- (27) *Ibid.*, (同上アドレス参照).
- (28) Khaleej Times. "Principals to Boost Moral Education in Schools." <http://www.khaleejtimes.com/news/education/principals-to-boost-moral-education-in-schools> (2017 年 5 月 20 日取得).
- (29) Zeaiter, H. "Al-Imālāt taṭluqu "al-Tarbīyat al-Akhlāqīyat" fī mudāris . . . lākin man yuḥadid al-akhlāq?" raseef 22, <http://raseef22.com/life/2017/03/13/%D8%A7%D9%84%D8%A5%D9%85%D8%A7%D8%B1%D8%A7%D8%AA-%D8%AA%D8%B7%D9%84%D9%82-%D8%A7%D9%84%D8%AA%D8%B1%D8%A8%D9%8A%D8%A9-%D8%A7%D9%84%D8%A3%D8%AE%D9%84%D8%A7%D9%82%D9%8A%D8%A9-%D9%81%D9%8A-%D8%A7%D9%84/> (2017 年 8 月 25 日取得).
- (30) 1870 年時点で日本において行われていたのは「修身」であり、「道徳」としての時間が創設されたものは 1961 年より実施された学習指導要領からである。しかし、ハリーフア大統領による評価においては、「修身」と「道徳」については特に区別されていない。
- (31) The National. "Moral Education and The UAE's March towards A Better Life." <http://www.thenational.ae/opinion/comment/moral-education-and-the-uaes-march-towards-a-better-life> (2017 年 5 月 20 日取得).
- (32) The National. *op.cit.* (前掲アドレス参照).
- (33) *Ibid.*, (同上アドレス参照).
- (34) Gulf News. *op.cit.* (前掲アドレス参照).